DIALOG(R) File 351: Derwent WPI (c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv. 007658762 WPI Acc No: 1988-292694/198841 Hair-care prod. compsn. - contg. two-electron redn. type oxidase e.g. pyranose oxidase, for mild oxidising action Patent Assignee: KYOWA HAKKO KOGYO KK (KYOW ); YAMAHATSU SANGYO KAISHA (YAMA-N); YAMAHATSU SANGYO CO LTD (YAMA-N) Inventor: HAGINO H; SAKATO K; TSUJINO Y; YOKOO Y Number of Countries: 012 Number of Patents: 012 Patent Family: Kind Date Week Date Kind Applicat No Patent No Α 19880330 198841 19881006 WO 88JP315 WO 8807360 Α 19870331 198847 19881013 JP 8778184 Α JP 63246313 Α 19880330 198915 19890412 EP 88902931 EP 310675 Α Α 19881129 199043 19901009 US 88283600 US 4961925 Α 19880330 199402 EP 88902931 Α EP 310675 B1 19940105 19880330 WO 88JP315 Α 19880330 199408 19940217 DE 3886867 Α DE 3886867 G EP 88902931 Α 19880330 .19880330 Α WO 88JP315 19880000 199521 19920325 EP 88902931 Α EP 310675 A4 19870331 199524 JP 95045385 B2 19950517 JP 8778184 Α JP 8778184 19870331 JP 11021214 Α 19990126 Α 19870331 JP 9829864 Α 19990126 JP 8778184 Α 19870331 199914 JP 11021215 JP 9829863 Α 19870331 Α. 19990602 JP 8778184 19870331 199927 JP 2899268 B2 Α 19870331 JP 9829864 19991025 JP 8778184 Α 19870331 199950 JP 2968246 В2 JP 9829863 19870331 Priority Applications (No Type Date): JP 8778184 A 19870331; JP 9829864 A 19870331; JP 9829863 A 19870331 Cited Patents: 02 15539000; 02 54598600; 02 11255000; 02 28789900; 01 32156000; 47 1040000; 51 6394900; 03 25174200; 04 12964400; Jnl.Ref; FR 2112549; JP 50095436; JP 4710400; JP 5163949 Patent Details: Filing Notes Patent No Kind Lan Pg Main IPC A J 28 WO 8807360 Designated States (National): US Designated States (Regional): AT BE CH DE FR GB IT LU NL SE A E Designated States (Regional): DE FR GB 8 US 4961925 Α B1 E 17 A61K-007/06 Based on patent WO 8807360 EP 310675 Designated States (Regional): DE FR GB Based on patent EP 310675 A61K-007/06. DE 3886867 Based on patent WO 8807360 10 A61K-007/06 Based on patent JP 63246313 JP 95045385 В2 Div ex application JP 8778184 9 A61K-007/09 JP 11021214

JP 11021215 A J 9 A61K-007/13 Div ex application JP 8778184

JP 2899268 B2 9 A61K-007/09 Div ex application JP 8778184

Previous Publ. patent JP 11021214

Div ex application JP 8778184

Previous Publ. patent JP 11021215

Abstract (Basic): WO 8807360 A

The compsn. (1) comprises at least one two-electron reduction type oxidase in which oxygen serves as an electron acceptor. The two-electron reduction type oxidase is at least one cpd. selected from pyranose oxidase, glucose oxidase, glycerol oxidase, lactic acid oxidase, pyridic acid oxidase and uricase. (1) contains the above-mentioned enzymes or sources of these enzymes. A hair-dye compsn. can be produced comprising an oxidising dye compsn. contg. enzymes and/or a compsn. contg. enzyme sources. An oxidising fixing agent compsn. for permanent-wave treatment can be produced comprising the hair-care product compsn. (1) contg. enzymes and/or enzyme sources.

USE/ADVANTAGE - Having an effective but gentle action in hair care. Useful as ingredients of hair dyes, decolouring agents for undesired hair, permanent-wave fixing agent compositions, etc. (28pp Dwg.No.0/1)

Abstract (Equivalent): EP 310675 B

A hair preparation composition comprising at least one dielectron reducing oxidase selected from the group consisting of pyranose oxidase, glucose oxidase, glycerol oxidase, lactate oxidase, pyruvate oxidas and uricase and a donor of said enzyme with the proviso that mutarotase is further contained in the composition if the oxidase is glucose oxidase.

Dwg.1/1

Abstract (Equivalent): US 4961925 A

Hair dye compsn. comprises (a) a dielectron reducing oxidase using 02 as an acceptor; (b) a donor of the oxidase; (c) an oxidn.

dye which is oxidasable by H2O2 to develop colour; (d) water; and (e) a cosmetic vehicle. Pref. oxidase comprises pyranose oxidase, glucose oxidase, glycerol oxidase, lactic acid oxidase, pyruvic acid oxidase or uricase. Opt. compsn. comprises a permanent waving prepn. without using (c). ADVANTAGE - Is low in skin irritation, without damaging hair or skin.

(8pp)

Derwent Class: D16; D21; E24; P24
International Patent Class (Main): A61K-007/06; A61K-007/09; A61K-007/13
International Patent Class (Additional): A45D-007/04

(19)日本国特許庁(JP)

# (12) 公開特許公報(A)

Citation 18

(11)特許出願公開番号

特開平11-21214

(43)公開日 平成11年(1999)1月26日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

FΙ

A61K 7/09

A61K 7/09

審査請求 有 発明の数1 OL (全 9 頁)

(21)出願番号

特願平10-29864

(62)分割の表示

特願昭62-78184の分割

(22)出願日

昭和62年(1987) 3月31日

(71)出願人 000001029

協和醗酵工業株式会社

東京都千代田区大手町1丁目6番1号

(71)出願人 391003325

山発産業株式会社

大阪府大阪市北区堂島1丁目1番25号

(72)発明者 辻野 義雄

大阪府泉佐野市羽倉崎1丁目1番31号

(72)発明者 横尾 義春

神奈川県相模原市横山3-4-17

(72)発明者 坂戸 邦昭

神奈川県厚木市上荻野987-37

(74)代理人 弁理士 岩橋 和幸

最終頁に続く

### (54) 【発明の名称】 毛髪用化粧料組成物

### (57)【要約】

【構成】 酸素を受容体とする二電子還元型オキシダーゼおよび染毛用酸化染料プレカーサーとは異なる当該酵素の供与体を含むパーマネントウエーブ用化粧料。

【効果】 本発明により、穏やかな酸化作用で充分な効果を有するパーマネントウエーブ用化粧料が提供される。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 酸素を受容体とする二電子還元型オキシ ダーゼおよび染毛用酸化染料プレカーサーとは異なる当 該酵素の供与体を含むパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項2】 該オキシダーゼがピラノースオキシダーゼ、グルコースオキシダーゼ、グリセロールオキシダーゼ、乳酸オキシダーゼ、ピルビン酸オキシダーゼおよびウリカーゼから選ばれる少なくとも一種である請求項1 記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項3】 該オキシダーゼがグルコースオキシダーゼを含み、さらにムタロターゼを含む請求項1記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項4】 該パーマネントウエーブ用化粧料がさらにペルオキシダーゼを含む請求項1、2または3記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項5】 該パーマネントウエーブ用化粧料がさらにパーマネントウエーブ用還元剤を含む請求項1、2、3または4記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項6】 酸素を受容体とする二電子還元型オキシダーゼおよび染毛用酸化染料プレカーサーとは異なる当 20 該酵素の供与体を含有するパーマネントウエーブ用酸化 固定薬剤およびパーマネントウエーブ用還元剤を含有する薬剤からなるキットの形態にある請求項1記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項7】 該オキシダーゼがピラノースオキシダーゼ、グルコースオキシダーゼ、グリセロールオキシダーゼ、乳酸オキシダーゼ、ピルビン酸オキシダーゼおよびウリカーゼから選ばれる少なくとも一種である請求項6記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項8】 該パーマネントウエーブ用酸化固定薬剤 30 がさらにペルオキシダーゼを含む請求項7記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

【請求項9】 該オキシダーゼがグルコースオキシダーゼを含み、さらにムタロターゼを含む請求項6記載のパーマネントウエーブ用化粧料。

### 【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、酸素を受容体とする二電子還元型オキシダーゼを有効成分として含有することを特徴とする毛髪用化粧料組成物に関する。本発明の第 401の目的は、穏やかな酸化作用で充分な効果を有する毛髪用化粧料組成物を提供することである。

【0002】本発明の第2の目的は、皮膚刺激が少なく、毛髪および皮膚を傷めることの少ない酸化染毛料、二浴式パーマネントウェーブ用酸化固定剤組成物など酸化的機能を有する毛髪用化粧料組成物を提供することである。

[0003]

【従来の技術および発明が解決しようとする問題点】従来、酸化染毛料では、酸化染料の酸化重合のためおよび 50

毛髪の脱色を行うために、酸化剤として、過酸化水素、過ホウ酸ナトリウム、過炭酸ナトリウムなどが使用されている。また、一般にパーマネントウェーブの施術は、チオグリコール酸、システインなどの還元剤を主成分とする第1剤により毛髪中のS-S結合を還元切断し、次いでこの毛髪を臭素酸ナトリウム、過ホウ酸塩、過酸化水素などの酸化剤を主成分とする第2剤により酸化固定する方法が採られている。

【0004】しかしながら、これら酸化剤によって毛髪や皮膚の損傷をひき起こすおそれがあるという欠点がある。

[0005]

【課題を解決するための手段】本発明は、オキシダーゼ により空気中の酸素を活性化させ、その酸化力を製品の 必要な酸化過程に効果的に用いるものである。

【0006】本発明は、酸素を受容体とする二電子還元型オキシダーゼを少なくとも一種含有する毛髪用化粧料組成物を提供する。本発明で使用される酵素は、酸素を受容体として過酸化水素を生成する二電子還元型のオキシダーゼであって、ピラノースオキシダーゼ(以下PRODと略記する)、グルコースオキシダーゼ(以下GODと略記する)、グリセロールオキシダーゼ、乳酸オキシダーゼ、ピルビン酸オキシダーゼ、ウリカーゼが挙げられる。

【0007】本発明においては、これらの酵素の一種または二種以上を組み合わせて用いることができる。なお、本発明の酵素を働かせるためには、補酵素を必要とするものもある。例えば、PRODには補酵素としてフラビンアデニンジヌクレオチド(以下FADと略記する。)、鉄イオンが、ピルビン酸オキシダーゼにはFADが知られている。

【0008】これらの補酵素は、普通酵素中に夾雑しているから、本明細費においては酵素あるいはオキシダーゼと記載した場合、特にことわり費きがない限り、必要な補酵素を含んでいるものとする。本発明はさらに上記オキシダーゼおよび当該酵素の供与体を含む毛髪用化粧料組成物を提供する。

【0009】供与体は、選択された酵素の供与体であって、染毛用酸化染料プレカーサーとは異なる供与体が用いられる。例えばPRODには、Dーグルコース、Lーソルボース、Dーキシロースが、GODには、Dーグルコースが、グリセロールオキシダーゼには、グリセロール、ジヒドロキシアセトンが、乳酸オキシダーゼには、乳酸およびその塩類が、ピルビン酸オキシダーゼには、足ルビン酸およびその塩類が、ウリカーゼには、尿酸およびその塩類がそれぞれ用いられる。

【0010】酵素の配合量は、実際の毛髪への使用濃度で1単位/100g~1×10<sup>8</sup> 単位/100g、好ましくは、1×10<sup>2</sup> 単位/100g~1×10<sup>5</sup> 単位/100gである。 供与体の量は、実際の毛髪への使用濃度で0.01重量%

 $\sim 60 \pm 8$ 、好ましくは、1 重量% $\sim 35 \pm 8$ %である。本発明において、供与体としてD ーグルコースを用いる場合は酵素としては、PRODが好ましい。これは、PRODがD ーグルコースの  $\alpha$  型と  $\beta$  型の両方に作用するからである。

【0011】酵素の活性をできるだけ高く維持し、安定 なものをつくる酵素固定化法がある。本発明において は、固定化された酵素を使用することも含まれる。酵素 を有機溶媒にも可溶化させるため、さらにまた有機溶媒 中でも活性を発現させるため、酵素蛋白質分子の表面に 合成髙成分あるいは天然髙分子を化学的に結合させるこ とができる。この修飾酵素も本発明の酵素に含まれる。 【0012】酸化染毛料に用いられる染料としては、通 常の酸化染料がすべて用いられる。レゾルシンの他、例 えば染毛剤原料規格(改訂第三版昭和60年5月、日本 ヘアカラー工業会・染毛剤懇話会)には、5-アミノオ ルトクレゾール、3,3'-イミノジフェノール、塩酸 2, 4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2, 5-ジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェ ニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジア 20 ミン、オルトアミノフェノール、カテコール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、2,6ージアミノピ リジン、1, 5ージヒドロキシナフタレン、ジフェニル アミン、トルエンー2、5-ジアミン、トルエンー3、 4 ージアミン、αーナフトール、パラアミノフェニルス ルファミン酸、パラアミノフェノール、パラフェニレン ジアミン、パラメチルアミノフェノール、ヒドロキノ ン、ピロガロール、N-フェニルパラフェニレンジアミ ン、フロログルシン、メタアミノフェノール、メタフェ ニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫 30 酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェ ニレンジアミン、硫酸4,4′ージアミノジフェニルア ミン、硫酸トルエンー2、5-ジアミン、硫酸パラアミ ノフェール、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメ チルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫 酸メタフェニレンジアミンが記載されている。

【0013】さらにまた、塩酸2、4ージアミノフェノキシエタノール、5ー(2ーヒドロキシエチルアミノ)ー2ーメチルフェノールも追加された。また、通常酸化染料と併合して用いられることの多い2ーアミノー4ー 40 ニトロフェノール、2ーアミノー5ーニトロフェノール、1ーアミノー4ーメチルアミノアントラキノン、塩酸ニトロパラフェニレンジアミン、1、4ージアミノアントラキノン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラニトロオルトフェニレンジアミン、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、ピクリン酸、硫酸2ーアミノー5ーニトロフェノール、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミンなどの直接染料も広義には酸化染料に含まれる。 50

【0014】通常、酸化染毛料では、酸化染料の酸化重合のため、および毛髮の脱色を行うために使用時の濃度で1.5重量%~4.0重量%の過酸化水素が使われる。この濃度では多少の毛髮の損傷は避けられず、また、人によっては、皮膚障害を起こすこともある。本発明では、空気中の酸素を活性化させ、利用するので、従来に比べ毛髪の損傷や皮膚障害を起こすことが少なく、かつ従来と同等の染色・脱色作用をもつことができる。

【0015】一方、過去には酸化染毛料の染毛処理技術において酵素を用いる技術が  $2 \sim 3$  見られる。例えば、特開昭 47-10400 には、①ペルオキシダーゼ酵素、②過酸化水素、③酸化染料からなる染髪法が提案されている。また、特公昭 51-47778 には第1剤としてジチオスレイトールまたは/およびジチオエリスリトール、第2剤には、①チロシンまたは/および 11-10 (3, 11-10 (3) にはその誘導体、② 11-10 (3) でラニン若しくはその誘導体、② 11-10 (3) でラニン若しくはその誘導体、② 11-10 (4) でラニンドロキシインドール、11-10 (5) にいた。 11-10 (6) では、①チロシンまたは 11-10 (7) であるといる。

【0016】さらに特公昭58-31325 には、①ピロカテコール、②亜鉛、銅または鉄の水溶性塩、③パーオキシダーゼ、④過酸化水素の4液から成る染毛剤も提案されている。これらは、いずれもはじめに配合した過酸化水素や過硫酸塩の酸化作用のみを利用するものであり、また配合する酵素も異なり、さらにまた、特公昭51-47778、特公昭58-31325 では色素の前駆物質が特定されており、その志向するところは本発明と異なっている。

【0017】また、本発明は酸素を受容体とする二電子 還元型オキシダーゼおよび当該酵素の供与体を含むパー マネントウェーブ用酸化固定剤組成物、いわゆる第2剤 を提供する。従来、第1剤は、チオグリコール酸および /またはシステイン等を配合した還元剤であり、第2剤 は、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過ホウ酸ナト リウムまたは過酸化水素等酸化剤の水溶液である。

【0018】通常、過酸化水素の濃度は1.0重量%~2.5重量%で使用される。この濃度では、多少の毛髪の損傷は避けられず、また人によっては皮膚障害を起こすこともある。本発明では、空気中の酸素を利用するので従来に比べ毛髪の損傷や皮膚障害を起こすことが少なく、かつ従来と同等の酸化固定作用をもつことができる。次にその試験例を示す。なお、%は重量%、酵素量の単位は、PRODはDーグルコース単位を、ウリカーゼは、尿酸単位を、ペルオキシダーゼは、過酸化水素単位を、ムタロターゼはα-Dーグルコース単位を用いた。

【0019】試験例-1

表-1のとおり酸化溶液としてグルコース・オキシダーゼ(GOD)、PROD、ウリカーゼの3種類のオキシ

ダーゼ、またそれらとムタロターゼおよび/またはペルオキシダーゼとの併用、比較として過酸化水素および酸化剤を配合しない精製水だけのものを調整した。これらについて染毛効果、毛髪の仕上りの2項目を下記の方法で比較判定し表-1に併記した。

【0020】〔試験方法〕染料溶液と酸化溶液を1:1の比率で混合した溶液10mlを直ちに重さ2g、長さ10cmの山羊毛毛束に塗布し30分間処理し、水洗、シャンプーを行い乾燥する。染毛効果および毛髪の仕上りの評価は、下記の基準によった。

【0021】A:染毛効果の評価

染着性

- ◎ 濃い暗褐色に染まった。
- 暗褐色に染まった。
- △ 薄い暗褐色に染まった。
- × ほとんど染まらない。
- B:毛髪の仕上り(未処理毛との比較)
- しなやかでくし通りがよい。
- △ ややしなやかさ、くし通りが劣る。
- × しなやかさがなく、くし通りも劣る。

[0022]

染毛効果の評価								[]	長1	]									
	1-13		0.1%	1		0.05	-	pH7.0	•		14.7		1		1			0	×
	1-12		0.1%	1		0.05	PH10.0 C.網整				14.7			1	۱	1		0	×
	1-11		0.1%	1		0.05		pii7.0			1	l		1				×	٥
	1-10.		0.1%		3.4	0.05		о. Уда						2.0		0.0058		0	0
	1.9*		0.1%	-	3.4	0.05	.	p#10.0				-		2.0				0	0
·	1-8*		0.1%	-	3.4	0.05	1	pH9.0			-		-	2.0				•	0
	1-1-		0.1%	-	3.4	0.05		0.88c	×		_	1		2.0		-	- × ·	0	0
_	1-6*		0.1%	1	3.4	0.08		pB7.0	, k			1		2.0	-		X	0	0
1	1.5*		0.1%	3.6	-	0.05		pil 7.0	-×  -		-	1	20.0			8500.0	<u> </u>	0	0
联	1-4*		0.1%	3.6		0.05		o . Žija				١	20.0					0	٥
	1-3-		0.1%	3.6		0.05	.	p.H7.0				8.3	1		0.2	0.0058		0	0
	1-2-		0.1%	3.6	-	0.05		рн7.0			١	8.3	+		0.2			0	0
	1-1*		0.1%	3.6		0.05	·	pli7.0 比IN整			1	8.3	١		1			٥	0
		(契料招限)	パラフェニレンジアミン	Dーグルコース	段 聲	チオグリコール磁	アンモニア水 (30%)	水磁化カリウム	材製水	(酸化油液)	<b>迪酸化水素水(35%)</b>	GOD(2.4年位/mg)	PROD(I単位/mg)	ウリカーゼ(2.8単位/略)	ムタロターゼ (0.95単位/ng)	ベルオキシダーゼ(112単位/ng)	精製水	<b>软毛</b> 効果	毛髪の仕上り

4

【0023】上記の結果により、酸化剤として過酸化水素を用いたものは、染毛性においては、優れているが毛髪の仕上がりが劣っている。そして、精製水のみでは、ほとんど染まらない。本発明は酸化剤としてオキシダーゼを用いることにより、過酸化水素と同程度の染毛効果を有しながら、従来にない良好な毛髪の仕上りを保つことができた。

【0024】試験例-2

表 - 2

パーマネントウェーブ用剤の第1剤(還元剤)処理後、第2剤(酸化固定剤)としてウリカーゼを配合した組成物、比較として臭素酸ナトリウムを配合した組成物および精製水だけのものを用いてウェーブ指数、ウェーブ保持率と指間滴下法による皮膚の荒れの程度の3項目を下記の方法で比較判定し表-2に併記した。

[0025]

【表2】

(第1剤(還元剤))

チォグリコール酸 アンモニウム (チオグリコール酸 として50%)	13.0%
アンモニア水 (30%)	pH9.0 に調整
精製水	バランス

(第2剂(酸化固定剂))

2-1*	2-2*	2-3	2-4
	_		8.0%
2.5%	2.5%	_	
2.0	2.0		
_	0.003		
	- バラ	ス	
· 61.0·	59.8	60.2	59.3
58,7	62.0	4.5	62.5
0	0	0	×
	2.5% 2.0 ———————————————————————————————————		

\*本発明 注:処方中のウリカーゼは第2 剤処理直前に添加 する。

【0026】 [ウェーブ指数およびウェーブ保持率測定 試験]

(I) 下記毛髪20本を一束とし、プラスチック製の測定用くしにジグザグ巻きにして固定し、キルビー法(プロシーディングス・オブ・ザ・サイエンティフィック・セクション第26巻12頁、1956年)に従って表-2で示した組成の第1剤(還元剤)に30℃、10分間浸漬した後、水で充分にすすぎ、次いでおのおの第2剤(酸化固定剤)に30℃、10分間浸漬する。水ですすいだ後に測定用くしから取りはずし、ウェーブ度を測定した

毛髪:長さ15cmの人毛(10才、女性、未処理毛)をウラリル硫酸ナトリウム10%水溶液で洗浄、風乾したもの。

【0027】(II) (I) で使用した毛髪をウラリル硫酸ナトリウム10%水溶液に60℃、20分間浸漬し水洗し虐待する。そのウェーブ指数を虐待前のウェーブ指数と比較してこれをウェーブ保持性とした。

【0028】 (指間滴下法による試験) 予めパネルの左右いずれかの指間部3ケ所 (第2,3指間;第3,4指間;第4,5指間)を検査し、何等皮膚に異常がないことを確認した後、指間部に定流量ポンプにより0.7 ml/分の割で、10分間表-2で示した組成の第2剤(酸化固定剤)を滴下し、5分間放置し、約40℃の温湯で15秒間洗い、タオルドライする操作を1日2回、中に2日間の休みをおいて前後各3日間ずつ、計6日間にわたって行い、試験を行わない手と比較し皮膚の荒れの程度を観察する。

【0029】実験のパネルは22才~52才の女子20 名で行った。皮膚の荒れの程度の評価は、下記の基準に よった。

A:皮膚の荒れの評価

- 皮膚の荒れの認められないもの。
- △ 微細なシワが認められるもの。
- × シワ、皮膚の乾燥、かさつきが認められるもの。

【0030】上記の結果により、本発明は、臭素酸ナト リウムを配合した従来品に比べてウェーブ効果において 何等変わりがないこと、そして精製水のみでは、ほとん 10 どウェーブ効果がないことが明らかである。また、臭素 酸ナトリウム配合品においては、皮膚荒れが認められる ものの、本発明の酸化固定剤を使用した場合パネルの皮 膚の荒れが顕著に防止されることが認められる。

【0031】本発明の化粧料は種々の形態で用いうる。 必要な全ての薬剤をまとめて1薬剤として用いうる が、、特に2~3の薬剤からなるキットの形態を用意す ることによって、使用時に便利に利用できる。オキシダ ーゼおよびペルオキシダーゼを含む薬剤とオキシダーゼ の供与体を含む薬剤とからなるキット、さらに酸化染料 20 を含む薬剤を加えた3薬剤からなるキットあるいは3薬 剤の何れか1薬剤と他の2薬剤を混合した薬剤とからな るキット等の形態を用意できる。パーマネントウェーブ 用に用いる毛髪用化粧料についてはパーマネントウェー ブ用還元剤を含有する薬剤、オキシダーゼおよびペルオ キシダーゼを含む薬剤およびオキシダーゼの供与体を含 む薬剤の3剤からなるキット、あるいはオキシダーゼお よびその供与体とペルオキシダーゼを含む薬剤とパーマ ネントウェーブ用還元剤を含有する薬剤の2薬剤からな るキットが便利に用いうる。これらの形態は実施例に例 30 示されている。次に実施例により、本発明をさらに詳細 に説明する。

### [0032]

## 【実施例】

実施例1 一剤式染毛料(クリーム状)	•
パラフェニレンジアミン	1 .35%
オルトアミノフェノール	0.1
レゾルシン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0.25
セタノール	6.0
オレイルアルコール	5.0
ポリオキシエチレンセチルエーテル (15E.O.)	7.0
流動パラフィン	10.0
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0
プロピレングリコール	2 .0
ウリカーゼ(2.8単位/mg)	1.0
尿酸	5.3
エデト酸ニナトリウム	0.2
チオグリコール酸	0.1
モノエタノールアミン、精製水	バランス
(pllをモノエタノールアミンで8.5 に調整)	

この組成物を白髪に塗布し、30℃にて30分間処理し 水洗、シャンプーを行い、乾燥する。白髪はグレー系の 色に染まった。

10

【0033】実施例2 一剤式染毛料	(ゲル状)
パラフェニレンジアミン	0 .08%
オルトアミノフェノール	0.04
ニトロパラフェニレンジアミン	0.4
2ーアミノー4ーニトロフェノール	0.4
レゾルシン	0.1
カルボキシメチルセルロースナトリウム	7.5
ウリカーゼ (2.8単位/mg)	1.07
尿酸カリウム	2.44
チオグリコール酸	0.1
精製水	バランス
この知式物を白彫に涂在し 20℃にて	20分間加田

この組成物を白髪に塗布し、30℃にて30分間処理し 水洗、シャンプーを行い、乾燥する。白髪は赤褐色系の 色に染まった。

### [0034]

### 一剤式染毛料(ヘアクリームタイプ) 実施例3

,	パラフェニレンジアミン	0.135	%
	オルトアミノフェノール	0.01	
	レゾルシン	0.025	
	セタノール	6.0	
	オレイルアルコール	5 .0	
	ポリオキシエチレンセチルエーテル(15E.O.)	7.0	
	ポリオキシエチレンセチルエーテル(10E.O.)	3.5	
	流動パラフィン	10.0	
	塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0	
	液状ラノリン	1.0	
1	ウリカーゼ (2.8単位/mg)	1.0	
	尿酸	1.1	
	エデト酸ニナトリウム	0.2	
	アスコルビン酸	0.2	
	水酸化カリウム、精製水	バランス	
	(pHを水酸化カリウムで7.5 に調整)		

この組成物を白髪に10~30分間用いた後、すぐに洗 髪又はシャンプーを行い乾燥する。10日間、白髪に毎 日使用したところ、グレー系の色に染まった。

### [0035]

50 ステアリルアルコール

実施例 4 一剤式染毛料(トリートメント剤タイプ)

パラフェニレンジアミン	0.04%
オルトアミノフェノール	0.02
ニトロパラフェニレンジアミン	0.20
2ーアミノー4ーニトロフェノール	0.20
レゾルシン	0.05
塩化セチルトリメチルアンモニウム	2.5
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0
ミリスチン酸イソプロピル	7.0
セタノール	5 .0

2.0

を白髪に塗布し30℃にて30分間処理し水洗、シャン

レー系の色に染まった。このエアゾール式染毛料は、保 50

			12	
流動パラフィン	4 .0		存中には、空気および/または噴射剤と	と接することがな
液状ラノリン	0.5		いのでPRODの安定性が高められる。	また、ピストン
プロピレングリコール	0.5		缶に代えて、バッグイン缶およびゴム6	D圧力で直接の容
ウリカーゼ(2.8単位/mg)	1 .0		器を加圧して内容物を押し出す EXXELS	YSTEM (CONTA INER
尿酸	5.1		INDUSTRIES INC. アメリカ)を使用す	することができ
ペルオキシダーゼ (112単位/mg)	0.003		る。	
チオグリコール酸	0.1		【0039】実施例7 二剤式染毛料	(シャンプータイ
水酸化カリウム、精製水	バランス		プ)	
(pHを水酸化カリウムで7.5 に調整)			パラフェニレンジアミン	0. 28%
この組成物を白髪に塗布し30℃にで		10	パラアミノフェノール	0.1
洗、シャンプーを行い乾燥する。白髪			オルトアミノフェノール	0. 14
染まった。また、従来へアトリートス			ニトロパラフェニレンジアミン	0.02
かじめシャンプーした髪に塗布し3(	)~40℃にて5~		レゾルシン	0.4
10分間処理し、水洗した。10日間			ポリオキシエチレンラウリルエーテル	
ところ、赤褐色系の色に染まった。			硫酸ナトリウム(3E. O.)	10.0
【0036】実施例5 一剤式染料	<b>纟料(粉末状)</b>		ヤシ油脂肪酸アミドプロピルジメチル	
硫酸パラフェニレンジアミン	10.0 %		アミノ酢酸ベタイン	4.0
硫酸オルトアミノフェノール	3.0		ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	5. 0
硫酸パラメチルアミノフェノール	2.0		Dーグルコース	5. 5
カルボキシメチルセルロースナトリウ	ひム 24.0	20	プロピレングリコール	1.0
炭酸ナトリウム	7 .36		GOD (2.4 単位/mg)	4. 15
尿酸	14.17		ムタロターゼ(0.95 単位/配)	0.1
ウリカーゼ(2.8 単位/mg)	8.30		ペルオキシダーゼ(112単位/咳)	0.0029
デキストリン	バランス		0. 1 Mリン酸塩緩衝液 (pH6.5)	パランス
まず上記組成物6gを精製水で50m	1とし染液とする。		注:処方中のGOD、ムタロターゼは	発毛処理時の直前
この染液を白髪に塗布し30℃にて3			に添加する。	
洗、シャンプーを行い乾燥する。白髪	<b>髪は暗赤褐色系の色</b>	•	この組成物を白髪に塗布し30℃にて	30分間処理し水
に染まった。この粉末式染毛料におい	いて原料中に水分が		洗し乾燥する。白髪はやや紫味をおび	た褐色に染まっ
含まれない場合には、安定性が向上し	<b>ンた。</b>		た。また、従来シャンプーと同様にこの	の組成物を白髪に
【0037】実施例6 エアゾーバ	レ式染毛料	30	30℃にて3~5分間用いた後、すぐん	
〔原液〕			る。10日間、白髪に毎日使用したと	ころ、やや紫味を
パラフェニレンジアミン	0.4 %		おびた褐色に染まった。	
パラアミノフェノール	0.1		【0040】実施例8  二剤式染毛	₽
オルトアミノフェノール	0.5		[染料溶液]	
レゾルシン	8.0		パラフェニレンジアミン	2.7 %
PROD (1単位/mg)	10.0		オルトアミノフェノール	0.2
<b>D</b> ーグルコース	5.5		レゾルシン	0.5
プロピレングリコール	2 .0		ラウリル硫酸ナトリウム	1.0
チオグリコール酸	0.1		<b>D</b> ーグルコース	11 .0
0.1 Mリン酸塩緩衝液(pli6.5)	バランス	40	エデト酸二ナトリウム	0.1
まず上記組成物をピストン缶(二重名	容器システム、第1		アスコルビン酸	0 .4
図) に注入し、ガス充填栓より、炭酸	<b>竣ガスを初体積が容</b>		アンモニア水、精製水	バランス
器の約1/3、初圧が約8~9kg/c	m² になるように注		(pHをアンモニア水で7.0 に調整)	•
入し、エアゾール式染毛料とする。			【0041】〔酵素溶液〕	
【0038】尚、噴射剤としては、月			PROD (1単位/mg)	20.0 %
ガスの他、チッソ、笑気ガスを、液化		•	ペルオキシダーゼ(112 単位/mg)	0 .006
1, 12, 114 , LPGを単独または混	合して用いること		グリセリン	3.0
ができる。この染毛料を白髪に塗布し			0.1 Mリン酸塩緩衝液(pH6.5)	バランス
間処理し水洗、シャンプーを行ない草			まず染料溶液、酵素溶液を1:1の比	
1 アクル・サナナ アクママン	1 -4275-75-1701-1- 170		七山形に冷在して0℃にて20公開加!	明日 水洗 シェン

プーを行ない乾燥する。白髪はグレー系の色に	染まっ		理し水洗、シャンプーを行ない乾燥する。白鷺	長はやや紫
た。			味をおびた褐色に染まった。	
【0042】実施例9  二剤式染毛料			【0046】実施例11 チオグリコール	と 全 主 成 分
[染料溶液]			とするコールド二浴式パーマネントウェーブ	
パラフェニレンジアミン	0.8 %		(チオグリコール酸系パーマネントウェーブ)	
パラアミノフェノール	0.2		〔第1剤(還元剤)〕	
オルトアミノフェノール	1.0		チオグリコール酸アンモニウム液	13.0 %
レゾルシン	1.6		(チオグリコール酸として50%)	
オレイン酸	20.0		ポリオキシエチレンオレイルエーテル (10E.0	.) 1.0
ビスー2ーヒドロキシエチルソルビタンアミン		10	ポリオキシエチレンオレイルエーテル (20E.0	•
ヒドロキシエチルステアリルアミド	6.0		ラウリル硫酸ナトリウム	0.5
プロピレングリコール	12.0		加水分解コラーゲン液 (20%)	2.0
イソプロパノール	10.0		エデト酸ニナトリウム	0.1
エデト酸ニナトリウム	0.3		アンモニア水、精製水	バランス
亜硫酸ナトリウム	0.3		(pHをアンモニア水で9.1 に調整)	
アンモニア水、精製水	バランス		【0047】〔第2剤(酸化固定剤)〕	
(pHをアンモニア水で 8.5に調整)			PROD (1単位/mg)	20.0 %
【0043】〔酵素粉末〕			ペルオキシダーゼ (112 単位/mg)	0 .0058
ウリカーゼ (2.8単位/mg)	15.4 %		Dーグルコース	3.6
尿酸	84.6	20	グリセリン	3.0
まず、染料溶液、酵素粉末を14:1の比率で			精製水	バランス
溶液を白髪に塗布し30℃にて30分間処理し水			注:処方中のPRODは第2剤処理時の直前に	に添加す
ンプーを行ない乾燥する。白髪は灰味をおびた			る。まず、常法に従い、毛髪の毛先をペーパ・	
まった。			て直径1.5cmのプラスティック製ロッドに巻	
【0044】実施例10 三剤式染毛料			記組成の第1剤中に30℃で10分間浸漬し	
〔染料溶液〕			1分間水洗し、次いで、第2剤中に30℃で	
パラフェニレンジアミン	0. 56%		漬、水洗してパーマネントウェーブ処理を行	
パラアミノフェノール	0. 20		結果、毛髪は、根元から毛先まで均一なウェ	
オルトアミノフェノール	0. 28		れた感触も良好であった。	, ~ 10 >
ニトロパラフェニレンジアミン	0.04	30	【0048】実施例12 システインを主成	分とするコ
レゾルシン	0. 80	••	ールド二浴式パーマネントウェーブ剤(シス・	
流動パラフィン	5. 0		ーマネントウェーブ用剤)	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
<b>ラノリンアルコール</b>	2.0		[第1剤(還元剤)]	
ポリオキシエチレンラウリルエーテル			塩酸Lーシステイン	7.0 %
リン酸(3E. O.)	2. 0		セタノール	0.5
ラウリン酸ジエタノールアミド	5. 0		オレイルアルコール	0.5
チオグリコール酸	0. 2		ポリオキシエチレンセチルエーテル(10E.O.)	
エデト酸ニナトリウム	0.1		ポリオキシエチレンセチルエーテル (15E.O.)	
0.1 Mリン酸塩緩衝液(pH6.5) パラ	ンス		エデト酸ニナトリウム	0.1
【0045】〔基質溶液〕		40		バランス
	6 %	70	(pHをモノエタノールアミンで9.1 に調整)	.,,,,,,
精製水がラン			【0049】〔第2剤(酸化固定剤)〕	٠
〔酵素溶液〕	^			3.3 %
	4 %			0.2
GOD (2.4 単位/mg) 16			<u>.</u>	0.0058
	0116		<del>-</del>	3.6
グリセリン 3.	-			3.0
0.1 Mリン酸塩緩衝液 (pH7.0) バラン				ランス
まず、染料溶液、基質溶液、酵素溶液を2:1			注:処方中のGODは、第2剤処理時の直前	
率で混合した溶液を白髪に塗布し30℃にて3		50	<ul><li>(在・2017年9日0日は、第2月22年中9日前</li><li>る。</li></ul>	- 14MH 7
一一、住民日のたけは、6日友に監印しろりした(3	い川町処	30	· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	

上記組成物について、実施例-11と同様にパーマネン た。 トウェーブ処理を行なった。この結果、毛髪は、根元か 【0050】 ら毛先まで均一なウェーブが得られ、感触も良好であっ

> 実施例13 チオグリコール酸を主成分とする加温二浴式パーマネントウェーブ 用剤

〔第1剤(還元剤)〕

チオグリコール酸アンモニウム液10.0 %(チオグリコール酸として50%)0.5セタノール0.5オレイルアルコール0.5ポリオキシエチレンセチルエーテル(10E.0.)1.0ポリオキシエチレンセチルエーテル(15E.0.)1.0エデト酸ニナトリウム0.1炭酸水素アンモニウム、精製水バランス

(pHを炭酸水素アンモニウムで 7.5に調整)

### 【0051】〔第2剤(酸化固定剤)〕

### 実施例11の2剤と同様

上記組成物について実施例10と同様にパーマネントウェーブ処理を行なった。ただし、第1剤、第2剤処理共に、45℃で行なった。この結果、毛髪は、根元から毛 20 先まで均一なウェーブが得られ、感触も良好であった。

### [0052]

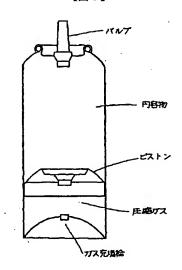
【発明の効果】本発明によれば、穏やかな酸化作用で充

分な効果を有する毛髪用化粧料組成物ならびに皮膚刺激が少なく、毛髪および皮膚を傷めることの少ない酸化染毛料の酸化剤、二浴式パーマネントウェーブ用酸化固定剤組成物など酸化的機能を有する毛髪用化粧料組成物が提供される。

### 【図面の簡単な説明】

【図1】は本発明実施例で用いるピストン缶の断面図を示す。

### 【図1】



フロントページの続き

### (72)発明者 萩野 浩志

東京都世田谷区上野毛3-16-1-701